

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
センター長	南谷 かおり
副センター長	増田 大作
非常勤医員	馬場谷 美知子
応援医師	葛城 有希子
看護師	谷口 美晴
保健師	岩岡 文夏

—概要—

健康管理センターは常勤医員2名(南谷医師・増田医師)、非常勤医員1名(馬場谷医師)に加え、応援医師1名(葛城医師)、看護師1名(谷口看護師)、保健師1名(岩岡保健師)、臨床検査技師(検査部より派遣)2名、および事務員3名にて業務を行っている。マンパワーの増加もあり、昨年度システムの改築や拡大への構築を進め、今年度から検査室をあらたにオープンして本センターで健康診断業務の多くを実施する方向で業務を進めた。それにより検査の効率化と受診者の負担軽減を図り、従来の人間ドック、脳ドック、乳がん検診を積極的に受け入れ、また各種健診業務に関しても多くの需要に可能な限り応えるよう努めた。昨年度から開始の指定航空身体検査(パイロット健診)、検査睡眠時無呼吸症候群の簡易スクリーニングや、従来実施のアミノインデックスがんリスクスクリーニング検査後にがんリスクが高かった方を対象とした精密検査などのオプション項目も充実した。また、今年度から新たに市民大腸がん検診やアレルギースクリーニング検査(MAST36)も開始した。

人間ドックは完全予約制で月・水・金曜日、脳ドックはそれに加えて土曜日に頭部MRI・MRA検査を行っている。人間ドック受診後、面談による結果説明を行い、精査・治療が必要な場合は一般外来へ院内紹介を行っている。今年度はさらに火曜日、木曜日にも実施する方向で院内各部署との調整を進めた。特定健診、後期高齢者医療健診および企業検診は平日の午前中、泉佐野市民検診である骨密度測定検査は平日の午後、市民乳がん検診は日曜日に年7回(1回あたり28名)、乳がん検診セットは平日の午後に行っており、それぞれ予約制となっている。一般検診は平日の午前中に行っており、予約は不要である。指定航空身体検査も関西国際空港に就航の航空会社と提携して年1回の定期検診を受けることにより確実な受診を達成できており、同時に一般社員の定期検診の受注にもつながっている。睡眠時無呼吸症候群の終夜酸素飽和度測定によるスクリーニング健診も継続し、当院循環器内科における睡眠時

無呼吸専門外来への紹介とCPAP治療への橋渡しが可能となっている。特定健診受診後、保健指導対象者となった受診者には、当日中に保健指導を行い、生活習慣の改善によるメタボリックシンドローム発症予防をめざしている。特に、近隣地域における心原性脳梗塞の発見のための心電図スクリーニングを行い、心房細動患者を発見して当院一般外来での治療につなげ、発症予防に貢献することができた。その他、被爆者2世健診、海上保安庁、消防署、閑空の検疫所等の職員の健診、就学時・就職時健診、企業の職員およびそのご家族の健診等を行っている。

外国人専用健診は訪日外国人旅行者を対象とした健診であり、現在のところ対応可能言語は中国語で、診察・検査には通訳を付けている。検査結果報告書は日本語・中国語の両方で作成し、昨年度からは詳細な画像を添付するなど、より受診者が理解しやすいよう改訂を行った。

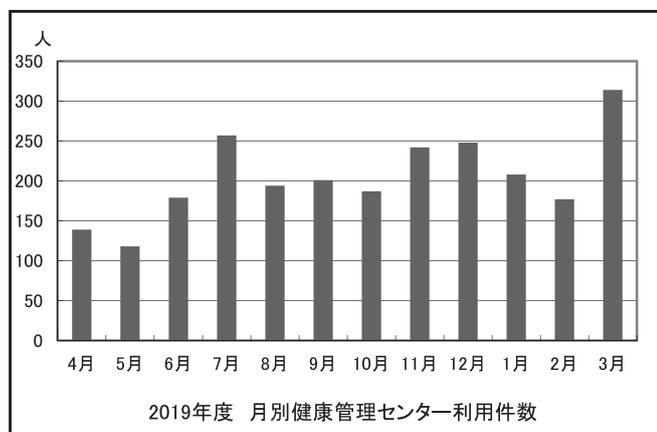
アミノインデックスがんリスクスクリーニング検査は従来から実施していたが、今年度も実施への興味が大きく受診件数の安定した確保につながっている。また、検査後のフォローアップとして、がんリスクが高かった方を対象とした精密検査も健康管理センターで行うようにし、異常があった場合は院内の各専門科に紹介している。

—実績—

2019年度の健康管理センター利用件数は、延べ2,466件で昨年の1,897件から大幅に増加した。内訳は表に示す通りで、昨年と比較すると企業検診の獲得の結果が最も大きく、そのほかにも特定健診・後期高齢者健診、航空身体検査や睡眠時無呼吸症候群スクリーニング検査が増加に貢献した。検査後の精密検査を含めたアミノインデックス検査や外国人健診は昨年同様に安定した集客に成功しており、地域や当院の特性を生かした予防医学への貢献につながり、かつ安定した検診業務が可能であった。昨年从今年度になり健康診断の多様化を目指した結果、検査項目も増え収益の改善に貢献しているが、週3日しか実施できていない人間ドックにおいては受診者のさらなる増加を目指して火曜日木曜日にも受診が可能となるように各部門との調整を行い年度末に各2名で実施が可能となった。しかし、このころから新型コロナウイルスの蔓延とそれに伴う緊急事態宣言の発令により劇的に受診者が減少し、改善に至っていない。

### 健康管理センター利用件数

	2018年度	2019年度
人間ドック・脳ドック	834	839
オプション脳ドック	177	170
企業健診・一般健診	254	705
特定健診・後期高齢者健診	126	148
特定健診保健指導	49	50
乳がん検診(市民・自費)	159	177
被爆者健診	33	38
骨密度測定	74	66
一般予防接種・抗体検査	32	18
指定航空身体検査	2	39
外国人専用健診・ドック	11	13
アミノインデックス検査 (検査後の精密検査を含む)	130	131
睡眠時無呼吸スクリーニング	14	39
大腸がん検診	-	19
アレルギースクリーニング	-	12
女性外来	2	2
合計	1,897	2,464



### —今年度の成果と反省点—

前述の通り企業健診の受診を積極的に受け入れた結果、受診者は大幅に増加したが、周辺の健康診断施設に比べると依然として施設は狭く非力であるのは事実である。しかしながら、スタッフの努力もあり、できるだけ効率の良い健康診断の受診を目指して新規健康診断システムを活用できるようになった。今後、作業をさらに効率化して受診者数増加に対応しうるシステムを確立して地域の健康診断需要に応えたいと考えている。また、継続して周辺企業への健診受け入れのリクルーティングを行っており、今後健康診断および人間ドックの受診者は増加しうると期待している。ところが、年度末に発生した新型コロナウイルス感染症の蔓延により受診者の感染予防対策が必要であり、受診者に関して必要な感染予防のための受診可能条件の設定、受診者の感染予防対策の徹底のため消毒に手間が取られることから来年度の受診者数は制限せざるをえないと考えられる。また、外国人専用健診についてもインバウンド健診者の増加を期待していたが入国がほぼ不可能になり、実施できない状況

になっており、今後再度可能になった場合に対応できるよう準備を進めたいと考えている。

### —来年度への抱負—

今までの健康管理センターは当院規模に比較してマンパワーの問題や検査も他部門に依存していたこともあり、十分な数の受診者を受け入れられず、断ることも比較的存在していた。今回、2019年度から新規健康診断システムを導入、臨床検査技師を増やすことにより受診者の増加に対応しうるシステムを確立し、リクルーティングを行ったことで健康診断や航空検診、睡眠時無呼吸症候群スクリーニングやアミノインデックスなど当院独自の健康診断をさらに広げたいと考えている。さらに従来からの特定健診・協会けんぽの対応可能施設となったことから受診者の新規増加を目指したいと思う。また人間ドックに関しても、受診者の利便性を考慮して毎日受診できることを目標とする。ただ、前述の通り新型コロナウイルスの感染状況により大きく左右され、また受診者の感染予防対策に業務を大幅にさかねばならず、昨年度の受診者数の維持は困難と予想される。そんな中でも地域の需要に対してしっかり応えていきたいと考えている。